



## てんかん患者にとって よりよい環境づくりを

日本てんかん協会理事 **福井典子** さん

**10**月下旬にオーストラリアで開かれた第8回アジア・オセアニアてんかん学会で「優秀当事者賞」（てんかんのある優れた当事者のための賞）を日本人として初めて受賞。

「社団法人日本てんかん協会の理事会が私を推薦してくれました。とは言え、てんかん協会はもうじき創立40年。私はただかその半分しかかかわっていませんから。協会を立ち上げて営々と運動を積み重ねてきたすべての当事者と家族がもらった賞だと思っています」

\*

革新都政が誕生した1967年に生まれた長女は重度の障害をもち、5つ下に双子の娘がいます。3人の子を抱えながら障害者運動にかかわり、親たちの願いを携えて渋谷区議に。その後、都議会議員として活動していた91年

初夏に最初の発作が起こりました。

「娘の誕生日プレゼントを買いに行ったデパートで私はもうろうとなり、万引きと間違えられたんです。現職の都議でしたから、マスコミ等からすさまじい中傷を受けました」

辞職後も攻撃は止まず失意に沈んでいた福井さんを励ましたのは、精神科医の故・秋元波留夫さんの言葉でした。

「てんかん患者として第二の人生を歩みなさい。あなたにはそういう使命があるんだから。地に蒔かれた一粒の麦となれ、と一言いただきました」

「地域・草の根での活動をしたい」と思い立ち、渋谷区内に「福祉倶楽部」を開設。議員経験を生かして障害者や高齢者の相談活動を始めました。

2000年から8年間、てんかん協会の常務理事として全国からの電話相談を一手に引き受け、月刊誌「波」の編

集長も務めました。欠格条項見直しの運動が広がった01年には当事者として国会の参考人質疑に招かれます。そして障害者自立支援法をめぐる歴史的な闘いへ。日本障害者協議会の理事として全国の障害者運動の先頭に立ち、さらに、すべてのてんかん患者が自立支援医療の対象となるよう国会や厚労省に粘り強く要求し、実現させました。

\*

授賞式も兼ねて参加した今回の学会で、オーストラリアにはてんかん専門の看護師がいると知り感激しました。「ニュージーランドでは20年かけて患者調査をして国家予算を増やしたという報告もありました。日本にも、医療だけでなく生活のすべてを支援するてんかんセンターの増設が必要です。医師と患者の連携で、患者にとってよりよい環境づくりを進めていきたい」

ふくい・のりこ 1937年東京・浅草生まれ。福祉倶楽部主宰。日本障害者協議会理事・広報委員長、障がい者制度改革推進会議・総合福祉部会委員、全国老後保障推進協議会常任幹事、東京社会保障推進協議会副会長、渋谷社会保障推進協議会会長など、てんかん患者、障害者、高齢者の社会保障を広げるためさまざまな運動に携わっています。趣味は歌うこと。家族は夫(認知症)と三女。

オーストラリアにて。優秀当事者賞を受賞した方々と（前列右から4人目が福井さん）

